

「神の慈しみについて②」

マタイ 20章1-16節

2013.9.22 Alex Tan

概観

神様の慈しみの寛大さ、気前の良さは、私たちに
とって理解しがたい時があります。

適用として、物事の公平さに目を留めずに、神様の
慈しみと恵みに焦点を当てるならば、感謝でき
るように見方が変えられていきます。

アウトライン

1. ぶどう園の主人と労務者 1節～2節
2. 神は常に私たちを探しておられる 3節～7節
3. 神様の恵みは満ち足りている 8節～12節
4. ただ慈しみにより、誇るものなし 13節～16節

1. ぶどう園の主人と労務者 1節～2節

- ・神様は主人であり、私たちは主人に仕える
労務者である。
 - ・市場で待っている私たちに仕事を与えて
くださった。待ちぼうけがなくなる。
 - ・1日1デナリ:1日分の報酬。ローマ兵士と
同等。努力ではなく、恵みにより与えられ
る。労務時間に比例しない。
- ⇒神様のぶどう園で働くことが容易ではな
いが、特権で実がなるのが楽しみである。

2. 神は常に私たちを探しておられる 3節～7節

- ・主人は9時、12時、15時に、最後17時に
出かけて行った。市場で待っている人がい
るのか常に確かめている。
- ・「だれも雇ってくれないから」:福音を知ら
ないでいる人がまだいる。教会は福音を
届ける仕事を与えられている。

⇒福音を聞いたなら、即座に応答すべきで
ある。「第十一時」まで待つべきではない。

3. 神様の恵みは満ち足りている 8節～12節

- ・恵みは与えられるものであり、受けて当
然のものではない。努力や律法により得ら
れるものではない。
 - ・神様の恵みは慈しみが中心で公平さでは
ない。信仰歴が長い、貢献が多い、評判が
良いからということではない。
- ⇒ずっと待っている人の気持ち、神様と最
後の1時間しか過ごせないことが理解でき
るのか？喜ぶ人と一緒に喜べるのか？

4. ただ慈しみにより、誇るものなし 13節～16節

- ・報酬として与えようとしていない。労務者
の必要を満たそうとして与えている。
 - ・神様の恵みは一般常識と違う。理解でき
ない。与える方はすべてを失い、受ける方
はタダである。人間ができないことなので、
誇ることがない。
- ⇒マタイ19:30⇔マタイ20:16
先の者とあとの者、順番は関係ない。神様
の慈しみを受けることが大事。